



地鎮祭直後の建設予定地。理想の生活への階段をここから歩みはじめた



エコロジー&エコノミーな「エコキュート」

ヒートポンプの原理を利用した給湯システムで、空気の熱を熱交換器で冷媒に集め、その冷媒を圧縮機で圧縮してさらに高温にし、高温になった冷媒の熱を水に伝えてお湯を沸かす。空気の熱を活用するため、投入した電気エネルギーの3倍以上の熱エネルギーを得ることができる。従来の燃焼式給湯器と比較して、エネルギーを消費する時に排出するCO₂を約50%も削減することができる。



都市型住宅の住空間イメージに適したスタイリッシュなデザインの「デザインエコキュート」もある

コストパフォーマンスに優れた至福のバスタイムを実現

地球環境に優しいテクノロジー
モダンな印象を与えるガラスの洗面台やすっきりとシンプルな浴室が、寛ぎのひと時へと導くバスルーム。壁には湿気を吸収する効果がある珪藻土を使っており、カビが発生しにくい清潔そのものの空間だ。「たっぷりのお湯でリラクゼーションできる」ので、入浴が楽しみになりました「とーさん。そんな至福のバスタイムを陰で支え、給湯システム「エコキュート」だ。

給湯は家庭で消費されるエネルギーの約1/6を占めており、この省エネをいかに図るかが、今後の地球温暖化対策の大きな課題。そこで、その対策の切り札として登場したのがヒートポンプ技術を採用したエコキュートだ。空気中の熱を活用し、従来に比べて排出するCO₂を半減することが可能。その優れた環境性能は国も認めており、導入に際しての補助金が用意されている。

また、エコロジーであると同時にエコノミーなものもエコキュートの利点。昼間より約70%も少ない夜の電気と高効率なヒートポンプでお湯を沸かすため、給湯のランニングコストは月平均1000円程度と、抜群のコストパフォーマンスを実現。「省エネルギー、省コスト」というメリットもありますが、地球に優しいという面でも今後ますます普及してくれたいなと思いますね」とーさんは話した。

上質な生活をコーディネートする「オール電化」の美しい家

空気の熱でお湯を沸かす「エコキュート」、クリーンで安心な「IHクッキングヒーター」などで、家中のエネルギーをすべて電気ですべてオール電化住宅。その魅力を探るべく、最先端の室内設備と自然素材の温かみが調和した理想の住まいで新生活を送る、1邸を訪ねました。

Photographs:Nobuyuki Kobayashi Text:Noriko Matsumoto Styling:Emiko Miyashita
制作協力:赤木春允(赤木工務店/042-469-8989)、設計士:池辺潤一(ikb inc./042-659-3106)

男性:シャツ¥11,500(エディフィス 渋谷 03-3400-2931)、パンツ¥12,600(エディフィス マテリオ 銀座 03-5524-1454)
女性:ブラウス¥17,850、デニム¥24,150(以上、アベナ/ファスナフール 03-3440-3251)
(TEPCO銀座館)男性:ジャケット¥25,200、ニット¥11,500、パンツ¥13,650(以上、エディフィス渋谷 03-3400-2931)
女性:ワンピース¥30,450、コート¥51,450、バック¥50,400(以上、アベナ/ファスナフール 03-3440-3251)

心と身体を温める理想の住環境

近年、オール電化住宅を望む人が急増している。杉並区に新築した1さんもそのひとり。「住まいの快適性と環境への配慮を考えて行きたかったのがオール電化でした。ユーザリの96%以上が満足しているという統計があるそうですが、住んでみて快適さを感じ、住んで感心しています」と話す。

1邸は、天然無垢材や珪藻土といった自然素材をふんだんに取り入れ、シンプルなかにも自然の温かみを活かした素材感があるのが特長。基礎の部分にセラミック炭素を取り入れることで、血行の流れを促す作用がある遠赤外線を放出させるなど、住む人にも優しい家だ。

環境と経済性を兼ね備えた新しい住まいのトレンド

「オール電化にして初めての冬を過ごしましたが、本当に快適でした。環境にやさしいエコキュートでいつでも温かいお風呂に入れるのももちろん、電気式床暖房をリビングをはじめキッチンや脱衣所にも導入したので、家の中で温度差を感じることもなくなりました」とーさん。これも、高気密・高断熱住宅と相性の良いオール電化住宅ならではだ。

「すべて電気でまかなうと聞くとう電気代が高いイメージですが、割安な夜間の電気を使っているのが経済的ですよ。光熱費を電気に一本化して月平均1万2000円くらいです。以前より安くなりました。電気は災害時の復旧が早いので、万が一の時にも安心です」

